

## 日航、中国東方航空と包括提携 連合の枠超えダイヤ調整

2018/7/27付 | 日本経済新聞 朝刊

日本航空は中国の航空大手、中国東方航空と包括提携する。これまでの共同運航（コードシェア）に加え、乗客の利便性を高めるためダイヤ調整や営業面の協力まで踏み込む。日航はワンワールド、中国東方航空はスカイチームと航空連合が異なる。日中関係の改善で日本人の中国訪問も回復しつつあり、航空連合の枠を超えて手を組む。

共同運航やマイル事業で協力しながらダイヤ調整まで進めるような水準の高い取り組みは航空業界で**共同事業（総合2面きょうのことば）**と呼ばれる。両社は2019年4月に共同事業を始める見通しで日中の航空会社では初めて。アジアで航空連合の枠を超えた戦略的な提携が広がりそうだ。

日中間と両国内の路線で包括的に協力する。互いの便を自社便のように活用し顧客の申し込みを受け付け、運航ダイヤや料金、乗り継ぎ時間を調整する。日中間の路線ネットワーク戦略も共同で手掛けることになる。両国の独占禁止法の適用除外の認可が前提となる。

顧客は日航の首都圏発の便や中国東方が強い上海発の便で利便性が高まる。中国東方が運航する中国国内80都市以上、日航の日本国内50都市以上への乗り継ぎもしやすくなる。運航ダイヤを調整すれば出発できる時間帯が増え、乗り継ぎの待ち時間短縮も期待できる。

国際航空運送協会（IATA）によると中国東方は17年の旅客数が8765万人で世界7位。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。